



2025～2026年度

R I テーマ よいことのために手をとりあおう

地区運営方針 ロータリーで善の循環を

糸魚川RCテーマ みんなでよい活動しよう



週報

糸魚川

2026.1.22
第3064例会

No.26

2026.1.15
(第3063例会 No.25合併号)

◆会 長 赤星賢二 ◆クラブ会報雑誌 長谷川淳一
◆例 会 場 ヒスイ王国館 糸魚川市大町1-7-11 TEL.025-553-1210
◆例 会 日 毎週木曜日 12:30～13:30
◆創 立 1960年9月10日 ◆承認 1960年10月12日
◆事 務 局 新潟県糸魚川市寺町 糸魚川商工会議所内 TEL.025-552-1225
◆糸魚川RC HP <https://www.itoigawa-rc.jp/>
◆第2560地区HP <https://www.rid2560niigata.jp/>

●本日のプログラム●

- ・点 鐘
- ・四つのテスト
- ・会 歌 奉仕の理想
- ・会長挨拶
- ・幹事報告
- ・委員会報告
- ・卓話

ゲスト卓話

一般社団法人糸魚川青年会議所

理 事 長 笠原 翔太 様

専務理事 佐藤 進哉 様

「2026年度の取組について」

- ・点 鐘

本日のお客様

一般社団法人糸魚川青年会議所

理 事 長 笠原 翔太 様

専務理事 佐藤 進哉 様

次回例会プログラム

ゲスト卓話

フォッサマグナミュージアム 学芸員

小河原 孝彦 様

「交流人口によるまちづくり」

幹事報告

◆1月15日(木)に夜間移動例会「合同新年会」が
笹倉温泉にて開催されました。出席者 13名

ニコニコ箱 1月8日 *****

赤星 賢二君 新年あけました。本年もよろしくお
願いいたします。

小田島修平君 あけましておめでとうございます。大
島さん、卓話楽しみです。根知出身
の山岸^{たすく}丞君が箱根駅伝を走り切りま
した。

大島 證道君 寺行事の修正会(大般若祈祷会)寺年
始、年始返礼等も無事終わりました。

松澤 和彦君 大島様、今日の卓話楽しみにしてい
ました。よろしくお願いいたします。

◆中央RCコーナー

ゲスト卓話

新潟県立高田特別支援学校 白嶺分校

教頭 小川 茂 様

「学校づくりはまちづくり」

◆個人寄付 1月8日 (4名 19,000円)

氏 名	スマイル	R財団	米山財団
赤星 賢二 君	1,000	1,000	1,000
小田島修平 君	1,000	1,000	1,000
大島 證道 君	3,000	4,000	3,000
松澤 和彦 君	1,000	1,000	1,000
合 計	6,000	7,000	6,000

出席報告

◆1月8日(木) 17名

1月のRIレート 1ドル／156円



1月8日の卓話 *****

ゲスト卓話

元U-23フットサル日本代表

大島 旺洋 様

「私のサッカーキャリア」



私は新潟県糸魚川市の出身です。大和川小学校、糸魚川東中学校を経て、新潟工業高校へ進学しました。高校ではサッカー部に所属し、3年間サッカーに打ち込みました。当時は、まさか自分が日本代表としてプレーすることになるとは、想像もしていませんでした。

高校卒業後、私は東京・神田の一般企業に就職しました。サッカーは続けたいと思っていましたが、あくまで趣味としてフットサルができればいい、という気持ちでした。そこでいろいろなコーチの方に「どこか良いチームはありませんか」と相談したところ、紹介されたのがバルドラール浦安でした。当時はFリーグの存在すらよく知らず、深く考えないままセレクションに参加したのが、競技人生の大きな転機となりました。

セレクション後、監督から「来てほしい」と声をかけていただきましたが、すでに就職していたため、最初は仕事を理由にお断りしました。ただ、新入社員として入社して最初の1か月は研修期間で定時退社だったこともあり、練習が夜の日は仕事終わりに参加する生活を続けていました。

しかし現場仕事ということもあり出張が多く、練習に参加できない期間が続くようになりました。やがて会社側からもクラブ側からも「どちらかに専念してほしい」という話になり、悩んだ末に私は選手の道を選ぶ決断をしました。入社してまだ1か月。雇ってくれた企業や、高校の先生への申し訳なさはありませんでしたが、覚悟を決めてフットサル選手としてのキャリアをスタートさせました。

加入当初は2軍からのスタートでした。フットサルはサッカーに似ていると思われがちですが、実際にやってみるとまったく別の競技でした。私の感覚では、サッカーというよりも「バスケットボールを足でやっている」ようなイメージです。戦術も動き方もこれまでの経験とは大きく違い、最初は大きな壁にぶつかりました。

それでも続けていく中で、半年後にトップチームとの試合があり、そこで結果を残すことができました。その試合後、監督から「1軍に来てくれ」と声をかけていただき、Fリーグの舞台に立つことになりました。

バルドラール浦安では約5年間プレーし、リーグ戦3位、全日本フットサル選手権準優勝という成績を残しました。私が引退した翌年にはリーグ優勝を果たしており、非常に高いレベルの環境で競技に向き合えていたと感じています。

しかし3年目のシーズン、監督交代をきっかけに再び2軍に落とされました。ちょうどその頃プライベートでもジムに通い、毎日トレーニングを重ね、日本代表を本気で目指していた時期だったため、代表選考前に2軍に落ちたことは大きなショックでした。「もうやめて糸魚川に帰ろうか」と思ったこともあります。

それでも、もう一度あの舞台でプレーしたい、日本代表として日の丸を背負いたいという気持ちが勝り、約半年間2軍でプレーし続けました。そして再び声をかけていただき、トップチームに戻ることができました。この経験は、選手時代の中でも特に大きな学びとなっています。

年を重ねるにつれ、下から若くて優秀な選手たちが次々と入ってくる環境の中で、「負けたくない」という気持ちと覚悟を持って競い続けました。その積み重ねが、自分自身の土台を作ってくれたのだと思います。

2021年、21歳の時にフットサルU-23日本代表候補合宿に選出され、翌年には日本代表に正式に選ばれました。代表活動の一環としてパリ遠征に参加し、フランス代表と実際に対戦しました。

小さい頃には想像もしていなかった舞台に立ち、緊張しながら臨んだ代表合宿でしたが、実際に感じたのは「意外と、こんな感じなんだな」という感覚でした。もちろんレベルは高いですが、圧倒されて何もできないという感覚ではありませんでした。

そう感じる事ができたのは、2軍に落ちた時期も含め、日頃から高いレベルの環境で地道に練習を積み重ねてきたからこそだと思っています。特別な舞台に立っても、必要以上に気負うことなく、自分らしくプレーできたのは、その積み重ねがあったからでした。

親睦事業「合同新年会」

1月15日(木) 笹倉温泉 出席者13名

